

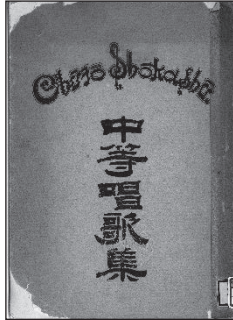
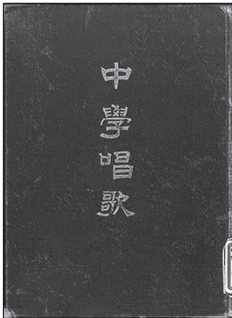
3 中學唱歌

ちゅうがくしょうか

3 中學唱歌

作者：東京音楽学校

刊行：明治 34 年（1901）



※左より、『中學唱歌』、『中等唱歌集』、『中等唱歌』



♪ 解題

■ 内容

『中學唱歌』は東京音楽学校より中学校の教科書として出版された唱歌集で、38 曲の唱歌を収録している。おおよそ縦 15 センチ、横 11 センチの小さな本で、前半には歌詞のみが縦書きで掲載されており、後半には歌詞が付された楽譜を収録している。

中等教育において唱歌教育を実施するため、東京音楽学校は明治 22 年（1889）に『中等唱歌集』を出版したが、収録曲の大半が外国曲に歌詞付けをしたものであったことから多くの批判を浴びた。その反省を活かして制作されたのが本書であり、38 曲のうち 21 曲が日本人の作である。

巻頭に当時の東京音楽学校長である渡邊龍聖(わたなべりゅうせい)が著した「例言」がある。編集経緯について「例言」では、まず広く文学・教育・音楽の専門家に作歌作曲を依頼して 100 曲を収集したこと、その後更に広く収集し最終的に集まった 200 曲のうちから 38 曲を選んだこと等が書かれてい

る。そのため、収録されている曲の多くが新作である。滝廉太郎が作曲した「荒城の月」と「箱根八里」は本書が初出。

国立国会図書館サーチによれば、公共図書館では、当館および大阪府立中央図書館国際児童文学館で所蔵が確認できる。

■ 作者

東京音楽学校は現在の東京藝術大学音楽学部の前身にあたり、明治 20 年（1887）に文部省の内部機関である音楽取調掛を改組し設立された、日本で初めての国立音楽学校。初代校長は伊沢修二。明治 26 年（1893）高等師範学校附属音楽学校となるも、明治 32 年（1899）に再独立を果たす。音楽教育者や音楽家の養成を行い、日本の音楽教育に寄与した。昭和 24 年（1949）東京美術学校と合併し、東京藝術大学となった。

♪ 類似の唱歌集

- ・『中等唱歌集』東京音楽学校編 大日本図書 1889 [SH375.97/21]
- ・『中等唱歌』東京音楽学校編 共益商社書店 1912 [SH375.97/31]

♪ 参考文献

- ・『東京芸術大学百年史：東京音楽学校篇 第1巻』芸術研究振興財団・東京芸術大学百年史刊行委員会編 音楽之友社 1987 [377.2/275/2-1]
- ・『日本音楽教育史』供田武嘉津著 音楽之友社 1996 [762.1/168]
- ・『日本童謡事典』上笙一郎編 東京堂出版 2005 [767.7/229]
- ・松本正「東京音楽学校編『中学唱歌』に関する研究」（『大分大学教育学部研究紀要』第38巻(1) 大分大学教育学部 2016）

※当館未所蔵 大分大学学術リポジトリで閲覧可